

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

字幕の文章作法って、小説とは違うんですね。

今回アルクの課題に取り組んで初めて知ったんですが、あまりにも衝撃的だったので、違う点をちょっと書いてみます。

- ・句読点は使わない（「、」は半角スペース、「。」は全角スペースで表現）
- ・三点リーダー「…」、ダッシュ「—」は、一個だけでいい
- ・句読点やダッシュ、「!」「?」等は文字数に数えない

字幕翻訳の世界では、これが常識らしいです。

しかし、三点リーダーが一個でいいって、ワナビの目から見るとかなり衝撃的。

何というか、アレですね。

今まで「…」が一個の印刷物を見る度に、「ああ、この人は文章を書く人じゃないんだな」と思っていたけど、分野によっては一個が正しい場合もあるんですね。

うん。

また一つ、勉強になった。

というわけで、次に字幕映画を見る時には、上の点に注目して見ようと思います。

それから、これは字幕に限らず翻訳界の常識らしいですが、長い文章を複数の文章に分けて訳すのは OK ですが、複数の文章を一文にまとめて訳すのは、絶対にやっちゃいけないことらしいです。

し、知らなかった……。

いたばし絵本の時、バリバリまとめて、3 文くらい一緒に訳してたわ……。

そんなこんなので、書く分野によっては文章作法がまったく違うので、「事前の下調べは重要だね」という教訓でした。

ちなみにアルクは今月末締切りなので、もうしばらく完成品を寝かせておいて、中旬くらいになったらこっそり出そうと思います。

えんためって、少女系は二次通過以上だけど、少年系は一次通過で評価シートがもらえるんですよね。

貞潔サディストの評価シートは、「貞潔」で届くのか「貞淑」で届くのか。
まだだいぶ先の話ですが、その点が今から非常に楽しみです。

それにしても、前にも書いたと思うけど、サディストは他の賞ではこんな評価でした。

MF、一次落ち
「エロ描写が直接的すぎます」

SD、二次落ち
「あっさりしすぎて、印象に残らなかった」

評価、真逆やないか！
エロいのか、エロくないのか、どっちやねん！

そんなわけで、サディストは自分でも位置付けに困っている作品なので、えんため基準でどういう評価なのか是非とも知りたいです。

しかし本当に、エロって難しい……。

文章に没頭して書いていると、何がエロなのか次第にわからなくなってきた、ついつい書き過ぎてしまうんですよね。

何度も味見をしていると、次第に舌がマヒしてきて、ついつい味付けを濃くしてしまう。
料理中にはよくあることですが、それと同じことが、執筆中にも起こっていると思います。

まあとにかく、二次落ちなら9月下旬に評価シートが届くと思うので、それまで楽しみに待とうと思います。

昨日の続き。

自分は普段まったくエロを書かない人間で、男女のラブシーンはせいぜい「手を繋ぐ」、キスなんてもってのほかという態度で執筆に臨んでいるのですが。

しかし……！

少年系ラノベを書く以上、エロを避けては通れまい……！

というわけで、あえてエロをメインテーマに持ってきたのが、貞潔サディスト。

しかしそういうのを書くのが初めてなので、どの程度の濃さにしたらいいかわからず、その結果大失敗してしまったように思います。

あのネタとかこのネタとか、現実世界で実行したら、確実に犯罪行為だもんなー……。

自分で書きながら、ヒロインに対する主人公のセクハラがひどく思えたので、その結果どうしたかと言うと。

そうだ！

ヒロインも主人公にセクハラしたら、平等だ！（違）

そんなわけで、作品タイトルは「激烈セクハラ戦」でいいんじゃないっていう、ヒドイ作品に仕上がりました。

まあ、それじゃ格好悪いので、「貞潔サディスト」に変えましたが。

とにかくこの話を今読み返すと、エロが濃厚で、自分で自分にドン引きするレベル。とはいえキャラは好きなので、機会があれば、もう少しマイルドに書き直したいです。

え？

選考中に、作品についての思いを語るのは、死亡フラグ？

へっ、いいんだよ……！

語ろうが語るまいが、どっちにしろ死亡フラグは立ってるからな……！

そんな感じで、今日は以上です。また明日！

当ブログ「らくだ図書館」は、シーサーブログを利用して書いております。

そのシーサーブログが、「N 次創作大賞」なる賞を開催中！

<http://forkn.jp/pages/contest/fanbook/creation/>

詳細は HP に書いてありますが、勝手にまとめるとこんな感じ↓

- ・ お題イラスト（5 点）を題材に小説を書く
- ・ 20 ページ以内の短編であること
- ・ 締切り、2012 年 7 月 31 日

【賞金】

大賞 賞金 10 万円／スマートフォン書籍アプリ化

佳作 賞金 1 万円／スマートフォン書籍アプリ化

forkN 賞 Amazon ギフト 1 万円分／スマートフォン書籍アプリ化

投稿時に「forkN」に会員登録する必要がありますが、無料です。

文字数制限はありませんが、1 ページ 700 字が目安とどこかに書いてあった気がするので、電撃換算だとおそらく 15～18 枚程度だと思われます。

筋金入りのワナビなら、18 ページくらい、枚数的には朝飯前！

それで大賞賞金が 10 万円＆アプリ化って、魅力的だ……！

と、個人的に思ったので、勝手に宣伝してみました。

決して、シーサーブログの回し者ではありません。

というわけで、月末までに余裕があれば、自分も参加してみようかなと思います。

しかしその前に、新作のプロットを作らねば……。

7 月から月イチペースに戻すつもりなのに、ネタ帳は完全に真っ白だ……。

昨日、講談社ラノベの一次発表がありましたね。

えーと。

応募総数が 333 本だから、一次通過が 36 本ってことは、ちょうど 9.25 倍か。

締切りの近いえんためや GA が約 3 倍ってことを考えると、何だかすごい難関ですね。

おまけに講談社の評価シートは一次通過以上だから、それなら賞の歴史が比較的長いえんために送るか、一次落ちでも評価シートがもらえる GA に送るか、そのどちらかを選びたいなあ。

それに 4 月末なら、スニーカー前期という選択肢もあるし。

そんな状況の中、講談社がどんな戦略を立ててくるのか、そっと見守りたいと思います。

いやあ。

自分が送っていない賞は、気楽な気分で見られる。

まあ 80 枚からでいいなら、講談社ラノベにも、一度送ってみたいけれど。

しかし自分は中編書きなので、100 枚が下限の賞は、枚数不足で送れないんですよね。

とにかく、えんためも講談社も一次発表が出たので、スニーカーもそろそろ？

それから来週には電撃もあるので、気の抜けない一週間になりそうです。

その翌週には、えんため二次が出る可能性もあるし、7 月って本当に恐ろしい。

まあ今さらジタバタしても結果は変えられないので、心静かに待とうと思います。

頑張ってくれ、自分の作品……！

国立国会図書館といえば、それこそ永田町という東京のド真ん中にありますが、関西館はそれはもう不便な場所にあります。

どれだけ不便か実際に調べてきたので、本日はその様子をレポートしてみます。



まずは、行き方。

京都方面から行く場合は、近鉄京都線「新祝園」から奈良交通バス（41 か 47）に乗り「国立国会図書館」にて下車。

大阪方面から行く場合は、近鉄けいはんな線「登美ヶ丘」から奈良交通バス（同じく 41 か 47）に乗り「光台一丁目」で下車。

所要時間はどちらも約 13 分で、料金は祝園からが 250 円、登美ヶ丘からだと 230 円でした。

バスから降りると、真ん前に建物があります。
というわけで、まずは写真を一枚。



車道ギリギリまで寄っても、建物が画面に収まりません。

さすが国立、広いです。

まあとにかく、行ってみましょう。

ちなみにこの国立国会図書館、満 18 歳以上なら誰でも利用できますが、入館に必要な登録カードを作る際に、身分証明書が必要になります。

登録しないと書庫の本を閲覧できないので、免許証やパスポートを必ず持参しましょう。



ガラス張りの、正面入口。

入館するとまず警備員に声をかけられ、カバンをロッカーに預けるよう言われました。それから受付のお姉さんの指導の元、新規の登録カードを作ることに。

すごいです。

なんというか、徹底してます。

「お前ら、気軽に来んなよ。本当に用事のある奴だけバス乗って来いや」
という図書館側の意思が、ビシバシと伝わってきます。

そのせいか、利用者のマナーは、とてもいいように感じました。

近所の図書館だと走り回る子供がいたり、昼寝している人がいて席が埋まっていたり、何かと読書に集中できませんが、この図書館の環境は本当に抜群！

立地はかなり不便ですが、自習環境（机の広さや席数）については、自分が今まで見た図書館の中で一番でした。

ただ、最近の娯楽本はあまりないので、蔵書を調べてから行くべきかも。

そういう自分も、わざわざ 2 時間近くかけて行ったのに、読みたかった本は東京本館のみの所蔵でガックリ……。



そんなこんなの、国立国会図書館・関西館。

本を借りることはできませんが、登録カードは三年間有効らしいので、関西にお住まいの方は、一度行かれてみてはいかがでしょうか。

関西館のホームページ

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/index.html>

先日に引き続き、今日も賞の宣伝を。

ここ最近、日本語検定の話は何度かしましたが、その日本語検定が「第4回日本語大賞」を開催しております。

応募要項 (PDF)

http://www.nihongokentei.jp/pdf/taishou4_boshuu.pdf

募集しているのは、「日本語」をテーマにした、ショート・エッセイ。
締切りは9月28日(金)で、字数制限は一般の部で、2,000字～3,200字。

うおお、短いぜえええ！

2,000字って、ちょっと長いあらすじの量じゃねえかあああ！

これだけ短いと、テーマ選びが逆に難しいですね。

40字×40行にみっちり書いて、一枚半ってことですもんね。

まあしかし、日本語についてエッセイを書くというのは、ワナビ的にものすごく腕が鳴るので、自分も参加してみようと思います。

うん。

前紹介した forkN より、とりあえず、こっちの方が優先だな。

自分は昔エッセイストになりたかったんですが、エッセイの新人賞ってあまり多くなく、その代わりラノベの新人賞はたくさんあったので、そんならラノベ書くかと思って書いているうちに、何となく今に至るという……。

とにかく日記やエッセイを書くのは大好きなので、投稿するのが楽しみです。

まあね。

好きといっても、何か実績があるわけではなく、寂しいシャドーボクシングですが。

そんな自己完結型ワナビですが、今後もよろしくお願いします。(またそのオチ)

ふと思い出したんですけど、去年は7月10日が日曜日だった関係で、7月8日の夜に一次発表がきたんですよ。

そして一昨年は、これまた7月10日が土曜日だった関係で、7月9日に更新がきたし。

そしてそのまた前年は、公式HPの更新が何故か大幅に遅れて、7月24日発表だったように覚えています。

その時は小説投稿自体が初めてだったので、いつ一次発表があるのかまったく知らず、仕事中に（しかも電話中に）偶然結果を見てしまって、あまりの嬉しさに泣きそうになったなあ。

そして文庫本に通過リストが入っていることを知り、仕事帰りに本屋へ向かったものの、あまりにも緊張しすぎて、本屋へ辿り着くまでに3回もトイレに行ったという……。

今にして思うと、結果がわかっているのに何故緊張したのかわかりませんが、あの時は本当に口から内臓が飛び出そうなほどドキドキしました。

あれはもう、3年前のことか。

こうして思い返すと、本当に懐かしすぎる。

今は一次通過者リストが文庫に挟まれないようになってしまいましたが、自分の結果を見るために本屋へ向かうあの緊張感は、独特の物がありますよね。

そんなワナビの回顧録。

発表直前に思い出を語っちゃったけど、ドンと来いや死亡フラグ。

ちなみに今年は、10日が普通に平日なので、10日更新になるんでしょうね。

今からソワソワしても仕方ないとわかっちゃいるけど、それも初夏の一ページ。

というわけで、あと2日楽しみに待とうと思います。

某所の情報は本当だったのか……。

というわけで、結果は一作が一次通過で、残りは全部ダメでした。

それにしても、あの話だけ通るなんて、ものすごく予想外。

ザビエル様が落ちたことは自分でも 100 %納得できるけど、GA の選評が好感触だった松竹梅は、きっと一次通過してくれると思ってたのになぁ。

何というか、アレですね。

4 年連続電撃に送り続けている人間として思うんだけど、一次通過基準が、年々明らかに厳しくなっているように感じられる。

だって今回一次落ちしてしまった作品は、自分のひいき目を除いても、絶対に過去の通過作より出来がいいし。

それか、そう思っていること自体が老化して頑固になっている証拠で、実際は 2～3 年前の方が若い感性で作品を書けていたのか。

まあとにかく、複数通過はできなかったけど、通過した作品に期待を繋ぐことにします。

インキュが二次通過してくれたら、「過去一番の成績」って言えるもんな。

というかそろそろ本気で、二次通過経験なしっていう、この経歴をどうにかしたい。

そんなわけで、今後の計画をちょっと立て直そうと思います。

文章を書くことが自分の最大の趣味なので、小説投稿をやめることはたぶんないけれど、あんまりそれだけに固執するのはよそうかな、と思ったり。

でもそれ以上に夢中になれる趣味が他にないから、結局何よりも優先して、小説投稿にパワーを注いでしまおう自分がいるのが現実で。

まあとにかく、来月の二次結果を見てから、色々と考えようと思います。

人は結局、見返りがないと生きていけない存在なんだと思います。

だからこそ、何か月（時には何年）もかけて完成させた作品が、新人賞であっさり落選してしまうと、本当にやり場のない気分させられます。

「あんなにパワーを注いだのに、落選なんて納得できない」と思ってしまいます。

それなのに、小説書きをやめられないのは、何故なのか？

人によって答えは色々でしょうが、自分の答えは、「実は十分な見返りを得ているから」。

たとえば、食事をしている時。

たとえば、電車に乗っている時。

そんな何気ない瞬間に、いつも決まって思うんです。

「先週書き始めたあの話、もっとああすれば良くなるな」

「このキャラクターに、こういう台詞を言わせたら、きっと楽しいだろうな」

そういうことを考えている瞬間、自分はたまらなく幸せで、それがもう十分すぎるほどの見返し。

自信作の落選を知った瞬間は、「何の見返しもない、割に合わない趣味だ」と考えてしまうけれど、それなのにやめられないのは、あの幸せを失いたくないからだと思います。

これはきっと、読み手のままでいたら、永遠に知らなかったはずの感情。

それにもっと言うと、小説投稿をしていて傷付いたことも多いけど、救われたことの方が実はずっと多いですからね。

だから、たとえこの先何回落選しても、懲りずに書き続けていくんだろうと思います。

……とまあ、そんなこんなの自分語りでした。

常木らくだは、単なるド M じゃないんだぜ！

小説投稿について、色々と考えてるド M なんだぜ！

余計なオチを書いたところで、今日は以上です。また明日ー。

昨日届いた趣味の品。



ドラクエ・モンスターマスコット・コレクション7より。
左からメイジももんじゃ、ももんじゃ、ダックスビルのストラップ。

青いメイジももんじゃが、JR 西日本の ICOCA のマスコットキャラクターに見える件はさておき、ももんじゃかわええ。

まあ実際は、例のカモノハシよりも、メイジももんじゃの方が先だからな！
パクリだと非難されたら、こっちが元祖だと言い返そう！

と言いつつ、正直なところ、イコちゃんも大好きですが。

下の写真は、JR 東海の TOICA、JR 西日本の ICOCA、JR 九州の SUGOCA。
各マスコットキャラクターの、コラボレーション記念 IC カード（愛用中）。



とまあそれはさておき、ももんじゃかわええー。

しかしコレ、携帯に付けると、一瞬で汚れてしまいそう……。
中古ショップの HP を巡り巡って、せっかく未開封品を買ったのに……。

そういうわけで、ももんじゃ三兄弟は、机に飾って楽しもうと思います。

どうかドラクエ 10 では、ももんじゃが再登場しますように……！
仲間にしたいなんて贅沢は言わないから、せめて出てきてくれ……！

というわけで、週刊アスキーを記念購入。



せっかくなので、過去 3 年分のリストも一緒に撮影。

しかしコレ、発売日に家の近くの本屋で買ったのに、すでに最後の一冊だったのはどうしたことだ。

ひょっとすると、近所に電撃投稿者がいるってことか！？

もしそうなら、是非ともお友達になってくださいっ……！

何と言うか、自分は周囲にリアルな投稿仲間がいないんですが、作品と評価シートをまとめて見せ合いっことかしたら、すごく勉強になりそうですね。

こういう作品を送ったら、この賞では、こういう評価になるのかぁ、みたいな。

選評のネット公開はダメでも、個人的に友達に見せるなら、違反ではないだろうし。

というのも、一人で評価シートを集めるのって、かなり時間がかかっちゃうから。

「こういう話に挑戦してみたけど、評価シートの感触はどうだろう」と思っても、実際に入手するまでに半年くらいかかったり、それどころか一次落ちでもらえなかったりするので、他の投稿者さんの選評というのはすごく気になります。

うん。

まあとにかく、夏の発表が一段落したので、そろそろ新作の執筆に戻ろう。

ちなみに、まだかなり時間があるけど、投稿先は 11 月の GA 後期に決定済み。

10 月の SD にも新作を投稿したいけど、今回の題材は何となく GA っぽいので、先にそれを書いてしまおうと思います。

次回作のタイトルを、いかにも「流行追いましたぜ！」的な長文タイトルにしようと思って、とりあえず仮題を決めて文字数を数えてみたら、全部で 33 文字だった。

コレ……。

恥を忍んで読み上げてみたけど、途中で一回息継ぎが必要だわ……。

まあでも、今回はこれに決定。

安易な流行に魂を売ったと言われそうなタイトルですが、ワナビ 4 年目にして二次通過歴がないのはあまりにも寂しいので、今回は「俺のなんちゃら〜」系の長い題名で攻めてみます。

とはいえ、長文タイトルも、今となっては下火ですかね……？

ううむ。

次に流行るのは、どんなタイトルだ。

一時期は、ひらがな 4 文字のタイトルがやたらと流行って、その後パッと見意味のない単語に「！」をつけるのが流行りましたよね。

「バンジョーニ！」なんて、まさしくその影響だ。

まあ GA 後期まで半年近くあるので、その間に流行も変わってくると思いますが、今回は長文タイトルにあえてチャレンジしてみます。

それにしても、文章のタイトルって、本当に初めてだなあ。

「好きです、ザビエル様っ！」なんかは、まあ文章と言え文章ではあるけど、あれはどっちかという魂の叫びだし。

とにかく、題名が無事に決まったので、明日からさっそく執筆作業に入ろうと思います。

そういえば、日本語検定は準 2 級でした。

最初から 1 級を取ることが唯一最大の目標で、1 級を受けるには 2 級が必要だから 2 級を受けたわけですが、点数が届かず準 2 級という結果に。

ううむ……。

何だかすごく、負けた気分だ……。

まあでも、いっか。

秋にも試験があるから、その時にまた受けよう。

別に会社で義務付けられているとかではなく、100 %自分の趣味でやっていることなので、気楽な気持ちでまた挑戦しようと思います。

語彙・読解力の方は、去年準 1 級を取ったので、1 級が始まったら受けようと思います。
公式 HP を見ると、ずっと「準備中」になっているけど、来年こそはきっと始まるはず。

そんなこんなの、語学試験マニア。

あと、語学試験で思い出したんですが、昔英検の試験監督をやっていた時に、面接試験の先生がこう愚痴ってました。

「どうして最近の中高生って、わからない質問をされた時、黙っちゃうのかしらね？　せめて『I don't know』だけでもいいから、とにかく何か言ってくれたら少しは点数をあげられるのに、無言のままではこっちは 0 点にするしかないわ」

だそうです。

これから英検を受ける中高生の皆さん、わからなかったら「I don't know」ですよ！

そんな感じで、今日は以上。

GA 用の新作が早くも波に乗っているので、今月中に仕上げてしまいたいところです。

あなたは主婦で、シイタケが大量に余っているとします。
で、どうにか消費したいんだけど、家族は全員シイタケが嫌いだとします。

そういう時って、どうしたらいいと思いますか？

シイタケはおいしいと、頑張って説明するのか。
あるいは、健康にいいというデータを見せるのか。
それとも、問答無用で無理やり食べさせてしまうのか。

自分なりに思うんですが、そういう方法で食べさせても、家族はたぶんシイタケを好きになってくれません。

それよりも、シイタケだと気付かないくらい細かく刻んで、ハンバーグに混ぜてそのまま食卓に出せば、家族はシイタケを食べてくれるでしょう。

なんか、小説書きにも、これと同じことが言えないかなあと。

例えば宣教師萌えを世に広めたいと思って、そのままズバリ「好きです、ザビエル様っ！」という作品を書いて送っても、その気持ちは伝わらないと思うんですよね。

相手にとって興味のない趣味を押し付けるのは、それこそ、シイタケを押し食いさせるのと同じ行為で。

そういう場合は、ハンバーグの例の通り、話の題材をとっつきやすい物にしておいて、その中に自分の本当に書きたい要素を混ぜるのも一つの手じゃないかと。

よし……！

上の例にちなんで、この試みを「シイタケ・ステマ」と名付けよう……！

今まで自分が書いてきた作品は、いつも自分の趣味を押し付ける内容だったので、今回はこの部分に注意して新作を書いてみようと思います。

皆様、こんばんは。

夏バテで意識が朦朧としている常木らくです。

そのせいか、外出中に家の鍵を落としてしまい、しかもそういう時に限って家族が家におらず、近所の誰もいないマクドナルドで2時間を瞑想に費やすという、激しく無駄な精神修行を行いました。

炭酸飲料のLサイズが100円なんて、素敵だね！

まあとにかくそういうわけで、自分のアホさに落ち込んでいたんですが、家族が帰って来て無事に家に入れた後、市バスの忘れ物センターに電話をかけたら、「ああ、それっぽい鍵が届いてますよー」。

マジか！！！！

そんなわけで、バスの営業所へ確認しに行ったら、確かに自分が落とした鍵でした。

すげえ……。

こんな小さい物なのに、よく届いたな……。

驚いて正直にそう言うと、

「バスの中の落とし物は、ボタン一つでも全部保管してます。それにしても、鍵が無事に見つかって良かったですね！（ニコッ）」

うおおおおおおおおおん！

高槻市営バス愛してるううううー——！

前に某所の忘れ物センターへ行った時は、見つからなかった上に「落とし物するなんて不注意だ」と説教されて、「たとえ落とし物しても、ここには二度と来ない！」と本気で思ったんですが……。

皆様、高槻市営バスに是非乗りましょう。

それから、毎日暑いですが、落とし物には十分に気を付けましょう。

本日は小説すばるの発売日ですが、一次結果は載ってませんでした……。

？？？

すばるって一次通過の発表なしに、いきなり最終結果が出るんですかね？

一般エンタメのしきたりは本当に何も知らず、そして過去の情報を調べる気力もそれほどないという、無敵のダメワナビ。

まあでも、一般は本当にダメ元投稿なので、軽い気持ちで来月またチェックしてみます。

とはいえ、ダメ元ではあっても、一次の結果は知りたいですよ。

受賞しなきゃ意味がないという意見もあるだろうけど、通過リストに自分の名前が載ったら、やっぱり執筆のモチベーションが上がるのが事実だし。

それに落ちたら落ちたで、「こういう作品をこの賞に送ると落ちる」という落選データを蓄積できるので、そういう意味でも一次結果は知りたいものです。

最近思うんだけど、この落選データって、意外とすごく重要だと。

書いた話が落選すると、「この作品はここが失敗だった」というのがわかるので、次にどうすればいいかが見えてくるんですよ。

この欠点が、不思議なことに、落選するまでは見えないんですよえー。

そうやって、誰にも知られずに失敗経験を積めるのは、ワナビの特権だと。

初めて書いた作品が受賞しちゃった人は、そういう経験を積みませんからね。

ぺっ……！

そう強引に思い込んで、何年もワナビをやってることに意味を持たせないと、マジでやってられねえぜ……！

というわけで、無意味に逆ギレしつつ、今日は以上です。

今日はホットな話題が特にないので、執筆スタイルに関する雑談をしてみます。

いや、まあね。

普段の記事も、どうでもいい話が大多数で、それほどホットじゃないですが。

それはそうと、皆様はシーンを変える時、どういう記号を使っていますか？

†

自分はこんな風に、3行あけて「†」ダガーマークを入れてます。

作品が和風で、「†」がイメージに合わない場合のみ、代わりに「＊」を使います。

このシーン変えを、自分はかなり頻繁にやる方で、そのせいか「個々のエピソードがバラバラな印象を受ける」と評価シートで指摘されました。

まあね……。

ほぼ一枚ごとにシーン変えしたら、そりゃバラバラな印象だよね……。

それ以降は、場所や時間が変わっても極力地の文で繋ぐように心掛けているので、評価シートでそういう指摘をされることはなくなりました。

まあそれでも、二枚や三枚で入れたりしますけど。

あとは、改行大好き人間なので、台詞以外のほぼすべての文章に改行を入れます。

これもたぶん、気になる人には気になる点だと思いますが、改行については一度も指摘されたことがないので、3年ちょっと頑固にそのスタイルを貫いています。

げっへっへ……。

今夜も改行しまくるぜ……。

というわけで、執筆スタイルの雑談でした！

そろそろ7月も下旬なので、アルク翻訳大賞の投稿を完了。

いやー。

まだ結果も何も出てないけれど、すごくいい勉強になったと思う。

前にもちょっと書いた通り、字幕・出版・実務の三部門すべてに挑戦したんですが、それぞれに求められる訳し方って全然違うので、その点が難しくもあり面白い部分でもありました。

たとえば実務部門の技術レポートなんかは、原文の単語を一つも漏らさずに、とにかく内容を忠実に訳すことが重要ですよ。

出版部門も基本的にはそうですが、小説の場合は内容の正確さもさることながら、文章のリズムや雰囲気を出すことが重要になってくる。

そして何より燃えたのは、字数制限のある字幕部門。

たとえば、元気のない女性を気遣う場面で、「あなたは今、まるで幽霊のように青白い顔をしていましたよ」という台詞があったとします。

しかし文字数の制限上、これを4文字で訳さなきゃいけない。

そうすると、原文の情報はどう考えても伝えられないので、「疲れてる?」「悩みでも?」という短い言葉に置き換える必要があるわけですが、この作業が心底楽しかったです。

くっくく……!

かかってこいや字数制限……!

ワナビの底力を見せてくれるわ……!

というわけで、無意味に高笑いをしつつ、今日は以上です。

明日の金曜日は、えんための二次発表ありますかねえ……。

えんためは、あえなく二次落ちでした。

なるほど。

212 作品⇒ 27 作品ってことは、倍率的にいうと、えんためは二次が相当キツイわけか。

とはいえ、ショックはまったくありません。

感想を聞かれても、「二次落ち？ ああ、そうね」みたいな。

これは別に、強がりじゃないぜ……！

何しろ、常木らくだの二次落ちフラグは、誰にも折れない鋼鉄製だからな……！

まあでも、仮に二次通過してもタイトルが違うままだったら、それはそれで面白いと思って、そういう意味では通過を期待してたんですけどね。

ともかく、評価シートはどっちのタイトルで届くのか、今からかなり楽しみです。

ちなみに去年の評価シートには、執筆意欲を根本的に削ぎ落とすコメントが書かれていて、その後一か月ほど本当に何も書けない状態に陥りました。

何というか、これは別にえんために限らないけど、「これじゃとても無理だよ」という意見は書かないで欲しいですね。

「これじゃとても無理」なのは落選した時点でわかっているのに、評価シートでわざわざ繰り返してそれを言われると、最高にイラッとした気分させられます。

「らくだ、早く宿題やりなさい」「うっせーな、わかってるよ！」みたいな。

まあでも、たとえ悪評でも評価シートがもらえるのはありがたいので、9 月下旬の到着を楽しみに待とうと思います。

今回は、一か所でいいから、何か誉められるといいなあ……。

小中高生の皆様は、ついに夏休みですね。
というわけで、本日は「夏休みの宿題」に関する話を。

自分は例によって、8月最終週にベソをかきながら宿題をするタイプだったんですが、毎年一つだけ夏休み序盤に終わらせていた宿題がありました。

それは何かというと、「夏休みの日記」です。

文章書きなら、任せてくれよ！
7月中に、8月31日の分まで終了だぜい！

とはいえ、未来の出来事を夢想して書くわけではありません。
いくら常木らくだとはいえ、そこまでひどい妄想癖はありません。

そうじゃなくて、「この本を読んでこう感じた」とか、日付けに左右されないことを書くわけですが、とにかく夏休みの日記だけは、まったく苦労せずに終わらせていた記憶があります。

というか、別に夏休みじゃなくても、日記はずっと書いているし。

それこそ、小学校の「せんせい、あのね」の時代から、相当いい年齢になった現在に至るまで、日記はずっと書き続けています。

もちろん毎日ではなく、時間がなくて書けない日もありますが、そういう時は後から遡って書くようにしています。

ただ一つだけ惜しいのは、兄に見られて死ぬほど恥ずかしい思いをしたため、子供の時の日記をすべて捨ててしまったことです。

今の日記なら読まれても困らないけど、10代の頃の日記はアレだったからな……。

まあとにかく、自分はそういう文章書きオタクなので、仮に小説投稿をやめる日がきたとしても、文章を書くことは生涯続けていこうと思います。

夏休みの宿題ネタ、第二弾。

皆様は、夏休みの自由研究って、毎年困りませんでしたか？

ホームセンターへ行けば便利な工作キットが売られているけど、できればお金をかけずに済ませたい……。

そう思った自分は、こんな自由研究をしました。

『ダンゴムシの観察』

1. その辺の草むらで、ダンゴムシを 30 匹つかまえる
2. 空箱に、野菜や果物やお菓子の食べ残しを入れる
3. ダンゴムシを投入し、どのエサに何匹寄り付くか、数を調べてレポート

小学生の時にこれをやって、「ダンゴムシはお菓子よりも野菜が好きらしい」という結論を書いたら、クラスで一番いい評価をもらえました。

やべ、予想以上にいい成績取っちゃった……！

ただ単に、工作キットの 500 円を横領する目的だったのに……！

まあさすがに、小学生はこのブログを読んでいないと思われますが、近所に困っている子がいたらオススメしてみてください。

「ダンゴムシを触れない」という子には、そもそも無理な内容ですけどね。

そういう時、自分は田舎生まれで良かったな、と地味に思います。

虫はもちろん、カメとかカエルとか、家の周囲に溢れるほどいましたからね。

雨の日は、カタツムリが大量発生して、踏み潰さないように歩くのが大変でした。

(カエルは踏む前によけてくれるけど、カタツムリは鈍感でよけてくれない)

大阪に来てからは、カエルもカタツムリもほとんど見ないので、たまに見るとかなりテンションが上がります。

そんな田舎語りをしつつ、今日のブログは以上です。

少し前に話題にした長文タイトルの作品ですが、当初の予想以上に順調に書けており、残すは最終章のみとなりました。

いい具合だ。

この調子なら、7 月中に終わりそうだ。

ちなみに、どうせなら徹底的にウザくしようと思って、作品タイトル（33 文字……）だけでなく、各章に 30 字前後のサブタイトルを付けています。

何かコレ、書いている最中、ウザ気持ちいい。

今まで「文章はシンプルが一番！」と思っていたから、初めての感覚だ。

よし、そうだ。

この作品をどうにか一次通過させて、通過リストを一人で 2 行か 3 行消費して、「常木らくだマジうぜえ」「もうアイツいいよ」と言われることを目標にしようと思います。

あぁーん！

もっと強く叩いてー！

まあでも真面目な話、自己満足な長文というのは、読み手にとってイラッとするもの。

なので、あえて長い文章を書きつつ、センスのいい言葉選びを心掛けている……つもりです、自分では。

とにかく最初にした通り、7 月中には仕上がりそうな気がするので、8 月にはもう 1 本別の新作を書こうと思います。

自分がメインで投稿している SD と GA 後期が、お互いに締切りが近くて毎年悩ましいので、夏のうちに可能な限りたくさん書きためておくんだ……！

ラブシーンの濃度で真剣に迷い、今日はほとんど筆が進まなかった。

これ、難しいですよ。

もしかしたら、小説を書く上で一番難しいかも。

ラブシーンについては、「照れずに堂々と書け」という講評をよく目にしますが、照れずに堂々と書いた結果、「エロ描写が直接的すぎます」と言われた前科持ちなので、ついつい慎重になってしまいます。

書き過ぎて敬遠されるよりは、控えめにした方がいいのかなあ……。

かと言って、あっさり書き流すと、印象に残らなくなりそうだし……。

なんかね。

どの程度の描写をして、どの程度で切り上げたらいいのか、目安になる物が欲しい。

それこそ、カタカナの表記揺れのように、ワードが指摘してくれたらいいんですけどね。

うっかり書き過ぎたら、赤い波線を出してくれたり。

それにしても、ワードの表記揺れの指摘には、毎回ひどく失望させられます。

以前このブログに書いた例では「カチン」と「カーテン」、「スパ」と「スーパー」を表記揺れ扱いされましたが、今日は「レジ」と「レディ」を表記揺れ扱いしてきました。

「ジ」と「ディ」が引っかかったんだろうけど、そんな訛り方しねえよ！

その理屈でいくと、「ジズニーランド」「ディブリ作品」が許されるぞ！

……いや、許されないから、間違いとして指摘してきたのか。

まあとにかく、ラブシーンの濃度に悩みつつ、明日も続きを書こうと思います。

文章チェックをしつつすでに書いた部分を読み返していたら、「オレは……！」と書いたはずの箇所が「オラは……！」になっていて、地味にショックを受けました。

主人公よ。

お前いつ悟空になったんだ。

それはさておき、「7 月末締切りの賞ってどこかないかな」と思ったら、ジャンプ小説新人賞の夏期の締切りがあるんですね。

初挑戦の賞だけど、思い切って、出してみようかな。

実際は GA 後期に出すつもりで書いた話だけど、最終結果の発表が 11 月の下旬らしいから、仮に途中まで通過できたとしても、GA の締切り前にはフリーの状態になっているはずだし。

という、ローテーションの「とらたぬ計算」を真剣にすると、あっさり一次落ちして、最短コースの 2 か月でフリーになるフラグが立ちそうですが。

フリー、か……。

自由って、いいよな……。

まあしかし、何しろ本文を書き終わっていない状態なので、ジャンプ小説に送るなら若干急ぐ必要がありそうです。

6 日あれば本文は確実に終わるけど、あらすじ書いたり印刷したり封筒に詰めたりっていう、事務作業も侮れないですからね。

そういうわけで、一週間頑張ってみます。

よーし！

目標は、日曜日までに本文を終わらせて、残りの二日で事務作業だ……！

突然ですが、皆様は「プロットの密度」ってどんな感じですか？

自分はものすごく適当で、ドラゴンボール Z の序盤で言うなら、
「クリリンが殺される ⇒ 悟空が怒って超サイヤ人に ⇒ フリーザ撃破」

くらいしか書かないので、プロットだけで 30 枚以上書く人がいると知って、かなり本気で衝撃的でした。

そ、そうか……。

プロットって、そんなに書くものなのか……。

電話中の走り書きレベルだった、自分のプロットが恥ずかしい……。

でも確かに、本文を書く前に構想をしっかり書き出しておいた方が、いざ PC に向かった時にイメージを文章化しやすいですね。

そう考えるとプロットって、イラストを描く際の、ラフ画のような存在なのかも。

イラストを描く時って、最初からいきなり完成稿の線を引けるわけじゃなく、まずはざっくりラフ画なり下書きなりを描いて、それから慎重に綺麗な線を引きますもんね。

というわけで、小説のプロットは、詳しくれば詳しいほどいい。

そんな常識的なことを、ワナビ 4 年目の今になってようやく知った常木らくだは大丈夫なのかと聞かれそうですが、大丈夫じゃありません。

そうさ……！

だから自分は、一次落ちなのさ……！

まあとにかく、月末までに間に合うかわかりませんが、あまり気負わずに頑張ろうと思います。

すでに2匹も購入したドン・モジャールのぬいぐるみを、しつこくオススメしてくるAmazonはどういうつもりだ。

アレか？

消耗品ってわけでもないだろうに、毎月リピート買いしろってことか？

それはともかく、ラストシーンが書けました。

まだ中盤に抜けている部分がありますが、ラストが書けてしまうと、心理的にかなり安心できるものですね。

しかしコレ、最後に主人公に言わせたい台詞が大量にあって、とりあえず全部書いてみたら、決め台詞のオンパレードみたいな状態になってしまった……。

ダメだ。

これは問題だ。

自分は個々の台詞に思い入れがあるから、読めば何度でも感動できるけど、このシーンを他人が読んだら相当ウザイと思います。

「どや？ この台詞、格好ええやろ？ 惚れてもええんやでえ」みたいな。

ただ、台詞の内容はどれも削りたくないなので、うまく会話に乗せて表現できるように、書き方を見直してみようと思います。

それと、今のままだと75枚なので、どうにかして水増ししないと……。

というわけで、今日は執筆中のひとりごとでした。

月末までに終わるように、明日も引き続き頑張ります。

自分が思う小説のいいところは、キャラクターが思っていることを、地の文に割り振れることです。

そもそも一人称であれば、地の文すべてが視点キャラの思っていることですが、三人称でそれをやるのが特に好きです。

例えば、この文章。

悟空は、拳を握り締めた。

クリリンは、本当にいい奴だった。

そのクリリンを、こんな風に殺すなんて、およそ許せることではない。

「オレは怒ったぞ、フリーザァァ！」

ちょっといい例が出てきませんが、この文章だと1行目は事実の描写で、2行目と3行目は悟空が思っていることですね。

仮にゲームシナリオだったら、すべてを台詞に組み込む必要がありますが、地の文をいくらでも自由に使える点で、小説は便利だし素敵だし書いていて楽しいと思います。

それから、よく問題になる「一人称と三人称」。

自分は特にこだわりがないので、今まで書いた作品も半々くらいですが、三人称の方が便利だなあという気はします。

一人称って、よく知らない相手のことを、呼びにくくないですか？

前に一人称で作品を書いた時に、友達のお父さんが結構たくさんしゃべる場面があって、その時に地の文で彼をどう呼ぶかものすごく悩みました。

いちいち「〇〇の父さん」って書くと、リズムも悪いし、よそよそしいし……。

三人称だったら、最初に名前を出して、名前で表現できるんですけどね……。

と、そういうわけで、今日も執筆中のひとりごとでした。

すでに本文は80枚書けたので、明日は読み直しを頑張ります……！

今日はテレビでオリンピックを観戦し、放送が途切れた合間に素早く PC を開き、読み直しをするという一日でした。

オリンピックは、本当にいいですね。

どの種目も涙あり笑顔ありで、見ているだけで胸が熱くなります。

そしてその分、オリンピックを見て感動した直後に自分の小説を読み返すと、途方もなくつまらなく感じられて絶望します。

やばい……。

やばいくらい、面白くない……。

読み返すのが、苦痛すぎる……。

普段は小説を書き終わって投稿するまで、「この作品は最高に面白い！」と信じ込んだ状態でいられるんですが、投稿前にこんなに冷めた気持ちになったのは初めてかも。

この気分は、アレだな。

23 時 45 分あたりに魔法が解けてしまったシンデレラ状態。

もしくは、王子様が助けに来る前に、自力で目覚めてしまった白雪姫。

っつかアタシ、もう呪い解けてるしー？

知らない王子のキスとか、マジキモイっていうかー。

とは言っても、今さら応募予定を取り消すのも負けた気がするので、魔法が解けなかった振りをして、予定通り何食わぬ顔で投稿しようと思います。

うっし！

明日は読み直しの残りど、印刷と封筒詰めまで、一気に終わらせるぞ……！

というわけで。

印刷&封筒詰めが、無事に完了しました。

昨日はああ書いたけど、今日になったら自信復活！

オリンピックの感動に比べたら面白くないってだけで、自分が今まで書いた話よりは確実に面白いので、きちんと胸を張って出そうと思います。

しかしこの内容は、「ジャンプ」的には平気なのか……？

異能もバトルも全然ない、ゆる〜い感じの日常物なので、その部分がかかなり不安です。

何というか、初めて投稿する賞の場合、「その賞が求めている物と全然違う、見当外れな作品を送っていたらどうしよう」という不安がありますよね。

まあでも、それを気にして二の足を踏んでいたら、小説投稿なんてできなくなってしまうので、場違い覚悟でチャレンジしてみます。

それと、今日カバーシートを加工していて気付いたんですが、電話番号が違う……。

というわけで、ここ一年間に投稿した作品すべて、自分の家の電話番号を間違えて書いておりました（爆）。

でも、平気！

だって、電話が来る段階まで残ったことないから！

これで三次や最終くらいの戦績があれば、「あの時本当は電話が来ていたのに、番号を間違っていて、チャンスを逃したんじゃないか……」と、ものすごくモヤモヤしていたに違いありません。

いやあ。

最高成績が一次通過という、自分の戦績をありがたく感じたのは、今日が初めてだ。

とにかく、ジャンプにはギリギリ間に合ったので、明日ポストに投函しようと思います。

今日は 7 月 31 日ということで、アルク翻訳大賞の締切りでした。

応募総数が気になるのですが、去年の字幕部門の講評に「今回は 100 名を超えるご応募をいただき……」とあるので、去年はぎりぎり 100 を越えるくらいだったのだと思われます。

えーと。

その中で、受賞者含め一次通過が 20 人ということは、字幕の一次通過率は約 20 %か。

と、いちいち通過率を計算してしまうのは、ワナビの悲しい習性だと思います。

まあ、それはともかく。

今回初めて応募したんですけど、アルクは応募者に親切な印象ですね。

何しろ応募要項に、「Word 等であらかじめ訳文を作成しておき、コピー＆ペーストすると便利です」と書いてあって、さらにその下に、

1. 「Ctrl」 & 「A」 で、用意した訳文全体を選択しましょう
2. 「Ctrl」 & 「C」 で、コピーしましょう
3. 「Ctrl」 & 「V」 で、コピーした文章を応募フォームに貼り付けましょう

という説明があって、胸が熱くなりました。

応募要項でコピペの説明とか、アルク、あまりにも親切すぎるわ……。

こりゃもう、これから毎年送るしかあるまい……。

あと、応募時のアンケートに「本誌で特集して欲しい翻訳家や作家は？」という項目があって、ここぞとばかりに好きな翻訳家さんの名前を書いたので、その方の記事が載ればいいなあと思います。

というわけで、アルクの話はこれでおしまい。

翻訳系では、次はいたばし絵本に挑戦する予定なので、今年も頑張ろうと思います。